

令和5年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県南会場

科目 ⑮放課後児童支援員の仕事内容

- ◆ 地域において、子育て支援に関わる大人として、人間性と専門性の向上に努め、子どもたちのお手本となるような人を目指さなければいけないことを学びました。待っているだけでは何もやって来ないと思うので、受け身の考えではなく、自ら動いて相手を理解し、自らのことも理解してもらえるような意識をもちたいと思いました。子どもたちや保護者、地域と継続的な対話を通して信頼関係を築きたいと思いました。
- ◆ 放課後児童クラブは年齢や環境の違う子どもと一緒に生活する場で、放課後児童支援員は、保護者、学校、地域と連携して、子どもたちが豊かに過ごせるような育成支援を行う必要があることを学びました。放課後児童支援員の言動が、子どもや保護者に大きな影響を与えることを自覚し、職場倫理を前提とし、柔軟な発想を持って、子どもたち一人一人と向き合い、放課後児童クラブを安全、安心な場にして行けたらと思いました。
- ◆ 放課後児童支援員の仕事内容、育成支援の留意点について学びました。支援員は信頼できる人間であることを前提に、支援の向上に努めていかなければならないと思いました。保護者に日常の様子を伝えることで、家庭と連携し、育成支援を行うことができるのだと思います。また、職員同士の信頼関係を築くことも大切なことだと思います。今後も研修等を通じて学びの心を忘れず、知識や技能を学び向上できるよう頑張りたいと思います。
- ◆ 放課後児童支援員の役割・仕事内容を再確認することができました。子どもを主体とすることは当たり前ですが、保護者も子どもと同様に考えていく必要があると感じました。学童を安心して預けられる場所として認識してもらうためには、仕事内容を支援員同士で共有し、子どもたちが安心安全に生活できる場をつくっていくことが大切だと思いました。子どもから「楽しい」という言葉が出て、保護者にも、子どもの様子から何か伝わっていけば嬉しいです。
- ◆ 放課後児童クラブへ子どもが自ら進んで通う必要性を理解するよう援助することが本当に大切だと感じました。放課後児童クラブは、安心して過ごせる生活の場として成り立たなければならないと思います。また、年齢、発達状況が違う多様な子どもたちが一緒に過ごす場であると思うので、一人一人の発達状況や子どもの特徴を捉えて、適切に関わっていきたいと思います。